

<h2>プロダクト・ライティング</h2>	<h2>プロセス・ライティング</h2>
<ul style="list-style-type: none"> 出発点はモデル・テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> 出発点は表現したいアイデア
<ul style="list-style-type: none"> モデル・テキストは模倣するための原本 	<ul style="list-style-type: none"> モデル・テキストはあくまでも比較のためのリソース
<ul style="list-style-type: none"> 原稿は最初からできるだけ正確に書くことを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿はさまざまな段階を踏んで何度も書き直して改善していく
<ul style="list-style-type: none"> 構成と言語的正確さを意識したライティングを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手と目的を意識したライティングを目指す
<ul style="list-style-type: none"> 個人作業を中心に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協力しながら書き進める
<ul style="list-style-type: none"> ライティングを特定の型の習得として捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ライティングを創造的な活動として捉える

ICT活用が特に有効と思われる箇所

参考: 和泉 (2016)『第2言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える～より良い英語学習と英語教育へのヒント～』アルク

スピーキング

- リアルタイムで即興で行われる。
- 時間的制約のもとで行われる。
- リスナーの面前で行われる。

- ジェスチャーなどの視覚情報に頼れる。
- 音声の強弱や抑揚に頼れる。
- 即興で話せる。
- 相手から手助けがもらえる。
- 相手から即座にフィードバックがもらえる。

- 事前計画して話せない。
- 時間的プレッシャーがある。
- 言っていることを修正する時間的、精神的な余裕がない。
- 聞き手からのプレッシャーがある。
- 一定の流暢さを維持する必要がある。

- **スピーキング練習は即興性の訓練や流暢さの訓練として最適。**
- **ただ、言葉の複雑さや正確さは二の次になりやすい。**

ライティング

- 時間的な制約が緩やかな場面で
行われる。
- 書いたものが見える形
で残る。
- 読み手は通常そこ
にいない。

- 事前準備ができる。
- 比較的じっくりと文を
作成できる。
- 辞書や参考書などを
参考にし書ける。
- 書いた文章を見直して
修正できる。

- 読み手は質問できない
ので、書き手は読み手
のニーズを考えて書く
必要がある。
- 書き手はできるだけ
はっきりと、また簡潔
に書く必要がある。
- 文章のつながりや
流れに注意して書く
必要がある。

- **言葉と内容の両面で文章単位で丁寧な言語使用が期待できる。**
- **読み手意識が希薄になると、自分勝手な英語表現となりがち。**